奥様方に
聞きました!!

キャンピングカーマダム達の本音に直撃

CASE 1 匿名希望

□ ご夫婦とも30歳代　□ ドイツ製トラベルトレーラーを所有

結婚前から続くキャンプは生活の一部

千葉県在住のOさん夫婦は、トラベルトレーラーでキャンプを楽しんでいる。旦那さんはかつてロープロファイルの輸入クラスCを所有していたが、「キャンプ場をベースにお風呂や買い物に行くには、トレーラーと乗用車を切り放せた方が便利」と判断。コンパクトなドイツ製トレーラーを買った。

奥様は、キャンピングカーがはじめて。しかし、結婚前からご主人のキャンピングカーを使ってキャンプを経験しているので、すでに「キャンプ」が生活の一部になっている。

現在のキャンピングトレーラーを選んだ理由は、まず取り回しの良さそうなコンパクトサイズの割にはベッドが広かったこと。あとは内装・外装のデザインセンス。販売店の印象も良かった。

宿泊場所はほとんどキャンプ場。トレーラーの場合は、キャンプ場と相性がいい。道の駅などで仮眠するのはマナーの問題も絡むし、安全性においても心配がある。

旅行プランは、すべて旦那さんにお任せだが、料理などは共同で作る。キャンピングカーを持って新しい楽しみ方が広がった。トレーラーを使えば、自然を満喫しながら快適な生活ができることが分かるようになって、キャンプが楽しいとも。

「女性が欲しくなるキャンピングカー」を自分で企画するならば、やはり使いやすさを最優先する、と奥様は言う。装備が複雑になると、どこに何があるか分からず、結局使いこなせないからだそうだ。

CASE 2 塚口ファミリー

□ 30歳代ご夫婦　□ 国産バンコンを検討中

ミニバンでの車中泊に不便を感じて

塚口夫妻の奥様がキャンピングカーに関心を持ったきっかけは、子供たちやその友だちも乗せて、小旅行を楽しみたいと思ったからだという。言い出したのはご主人の方だった。

それまでは家族でミニバンによる車中泊をしていたが、子供の友人たちも同行する機会が増え、車両を狭く感じるようになった。またミニバンの凹凸のあるシートでは寝づらいと感じるようになった。

そこで探し始めたのはハイエース系のバンコン。それなら自分でも運転できそうに思えるから、と奥様。キャブコンは運転が無理そう。小型サイズのものもあるが、見た目の違和感がある。

近所の人たちは「キャンピングカー」というと、みなキャブコンを想像し、ワンボックカーのキャンピングカーが存在することを知らない。だからキャンピングカーの話題になると、みなキャブコンを意識して「高そう。運転が大変そう」と言うらしい。

欲しいバンコンは、就寝機能だけに特化したようなシンプルもの。シンクなどは弁当箱ぐらいの大きさで十分。対面シートも要らないくらい。それでも8ナンバーにこだわるのは、3ナンバーより税金が安いから。バンコンを買ったら、夏はキャンプ。冬はスノボードを楽しむつもり。だから4WDが欲しい。

ウィンドウが外に張り出しているクルマは、側面や後方の視界が妨げられそうで嫌い。窓面積はできるだけ広い方がいい。男の人はサイドミラーだけでバックができるが、女性はルームミラーまで見ないとバックができない。だから、リヤウィンドウの見えないクルマは敬遠している。

CASE 3 小谷田夫婦

□ ご夫婦とも40歳代　□ 軽キャンパーを所有

夫婦で出掛ける、時間に縛られない自由な旅

小谷田さん夫妻は、普通乗用車でペンションに泊まったり、車中泊を楽しんでいた。

しかし、ペンションに泊まるには予約が必要であり、時間的な制約を受ける。また、乗用車の車中泊ではベッドがフルフラットにならないため、疲れがとれない。

そんな不満を感じていたとき、奥様がテレビの報道でキャンピングカーの存在を知り、欲しくなったという。

それまでご主人はキャンピングカーに興味がなかったが、奥様の話を受けて、パソコンや専門誌を見ていろいろな情報を集めるようになった。

車庫事情や道路事情、経済性などを考慮すると、軽自動車キャンピングカーがベストという選択になったという。

ポップアップ機構があるクルマを選んだのは、就寝スペースと荷物スペースが増えるという判断から。水タンクと流しが付いているため、車内で顔を洗えたり、歯を磨けたりするので便利だと感じた。

運転は、奥様と旦那さんが交互に行う。しかし、奥様も運転が好き。狭い道に入っても困らないので、運転がとても楽だとか。

今までオートキャンプというのをやったことがなかったが、このクルマを買ってから、逆にキャンプに興味を持つようになった。今では少しずつキャンプ用品を買い揃えるのが楽しみ。

キャンピングカーを購入した後にも、いろいろなキャンピングカーショーを回り、他のクルマなどに付いている装備類も研究する。参考になるものがあれば、自分のクルマなどにも取り付ける。そういう工夫を凝らすこと自体が、とても面白いという。

奥様方に聞きました!!

キャンピングカーマダム達の本音に直撃

CASE 4 大東夫妻

□ 50歳代　□ 国産バンコンを所有

そろそろ日本一周の旅へ

大東夫妻は、キャラバンベースのバンコンを7年間使っている。

その昔は、クルマにテントを積んで、テントキャンプを楽しんでいた。しかし、テントは撤収が大変。特に雨などが降ったときは苦労が絶えない。そこで、子供が大きくなって“2人旅”になったことをきっかけに、キャンピングカーの購入に踏み切った。

運転はもっぱらご主人だが、高速道路などに入ったときは、奥様も運転する。乗用車に比べ、目線が高くなるので、運転はしやすいという。

現在乗っているバンコンは、縦寝の2段ベッドタイプ。横に2人で寝るのは窮屈だが、上下に分かれて一人ずつ寝られるので安眠できる。

今までの旅行のテーマは主に温泉めぐり。冬はスキーも楽しむ。

基本的に、車内では調理をしない。それよりも、旅先で料理のおいしい店を探し、地元の味に舌鼓を打つのが楽しみ。

定年退職したので、そろそろ日本一周用のクルマへ買い替えることも検討中だという。北海道や東北も回りたいし、スキーも楽しむとなると、どうしても断熱性の高いクルマが欲しくなる。

検討しているのは小型のキャブコン。今までバンコンに乗り続けて来たので、キャブコンの自由なレイアウトや居住性、断熱性に魅力を感じるようになったという。

CASE 5 匿名希望

□ ご夫婦とも20歳代　□ 現在購入予定はなし

乗用車の車中泊から、キャンピングカーへ

ご夫婦とも、どのようなキャンピングカーを購入するかということに対して、具体的な考えは持っていないと話す。

しかし、ミニバンで車中泊を始めたばかりなので、その延長線上にあるキャンピングカーに興味を持ち始めたところだという。

ご主人はもともとスキーが趣味。バイクのレースなどもよく観戦に行く。そのために車中泊を始めたが、荷室に段ボールを敷いて寝ているので、寝心地もよくないし、腰も痛くなる。ゆくゆくはキャンピングカーになるだろう…という見通しは立てているとか。

車種までは絞りきれないが、欲しい装備の見当はついてきたという。

車中泊の体験から、奥様は車内で手や顔を洗えるシンクは必需品と考えているようだ。ナマモノのお土産などを買って帰ることを考えると、冷蔵庫もあれば便利。クルマの中でトイレを使うことには抵抗があるが、ポータブルトイレなどもあれば安心とのこと。

キャンピングカーショーに行って驚いたことは、電子レンジを搭載したクルマがけっこうあったこと。最近は冷凍食品が充実してきているので、電子レンジがあればかなり食事のメニューが充実してくるだろう、と奥様は目を輝かす。

外装デザインの話になると、奥様は「もっと派手な色のクルマがあってもいいと思う」とのこと。ご主人がそれにつけ加えて、「迷彩色のキャンピングカーがあればきっと目立つ」と笑う。

ただ、キャブコンのフロントグリルに関しては、ご夫婦で意見が分かれた。

「トラックみたいなグリルには興味がない」という奥様に対し、「あのスクエアな顔が頼りがいがありそうに思える。風に弱そう!　という表情が男の覚悟を表現しているようでカッコいい」と楽しそうに語った。

CASE 6 横山夫妻

□ 50歳代後半　□ ドイツ製クラスAモーターホームを所有

夫婦で出掛ける、時間に縛られない自由な旅

ご夫婦のキャンピングカー歴は11年。国産キャブコンを2台乗り続けた後、輸入モーターホームを2台乗った。

奥様がキャンピングカー旅行を経験するようになったのは結婚後。それまでは鉄道を使った一人旅を楽しんでいた。温泉めぐりが好きだったという。

キャンピングカーを利用するようになってからは、行動範囲が飛躍的に広がり、旅の充実度が深まった。

旅の基本プランは、旅の番組や旅雑誌を見ながら、ご夫婦2人で錬る。さらに詳細情報を調べるのは奥様の役目。図書館まで出向き、参考書を見つけては旅行プランの肉付けを行う。

宿泊は、キャンプ場や道の駅のような場所はあまり使わず、人に迷惑のかからないような、山や高原のちょっとした景色のよい空き地を探して休む。そういう場所を探すために、レンタカーを借りて下調べをするほど念を入れる。

公共のマナーには特に気をつかっているという。基本的に、食事は車内。周りに他のクルマや人がいないことを確認できたときだけ、外に椅子を持ち出し、お茶を飲みながら鳥の声を聞く。

騒音の防止とエコを意識して、発電機は使わない。代わりにソーラー充電による電気の確保を心がけている。それでもソーラー充電には限りがあるので、夜はローソクの明かりを頼りに過ごすことも。車内に微かにともるローソクの明かりが、なんともいえない風情をかもすという。

これからの時代は自然との共生が大事、とご主人は語る。その点ソーラーはCO_2を出さないし、ローソクの明かりは大自然の夜の静けさとも調和する。

自然の息吹をたっぷり吸ってくつろぐことが、夫婦のワーク&ライフバランスを合わせることにつながっているという。

JRVAは、女性のくるま旅を応援しています

□撮影協力(ロケ地)

PICA富士西湖

〒401-0332
山梨県南都留郡富士河口湖町
西湖2068-1
TEL.0555-20-4555(現地フロント)
http://saiko.pica-village.jp/

□撮影協力(小道具)

マウナロアMMJ

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-15-6
オークツービル1～3F・5F
TEL.03-5421-0043
http://www.maunaloa-mmj.com

皆様からのご意見・ご感想お待ちしております

今回の「くるま旅VoL.6」はいかがでしたか?　皆様の素敵なくるま旅の参考になれば幸いです。また事務局では皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。「こんな事が知りたい」「こういう特集をやってほしい」などのご要望や、「○○道の駅のこれは美味しい」「私の★★★キャンプ場」「こんな動物と出会った」等々、あなたのくるま旅のエピソードをお寄せください。写真も大歓迎です。十人十色のくるま旅のお話を聞かせて下さい。採用された方には粗品を進呈します。

■ 宛 先　〒194-0022　東京都町田市森野1-10-10　ペアシティエンドウビル2-A
日本RV協会事務局「くるま旅編集部」まで

くるま旅 Kuruma Tabi Vol.6
□ 発 行　日本RV協会(JRVA)
□ 編 集　株式会社自動車週報社
□ 印 刷　図書印刷株式会社
《 無断転載を禁ず 》
2010年2月1日発行　Printed in Japan 2010